

經濟水道委員会

説明資料

令和3年3月18日
観光文化交流局

目 次

頁

- 1 軽量盛土に関する石垣・埋蔵文化財部会との協議状況…………… 1
- 2 文化庁からの指摘事項に対する追加情報の作成に係る教育委員会事務局
との調整内容…………… 5

1 軽量盛土に関する石垣・埋蔵文化財部会との協議状況

区 分	構成員の発言要旨
令和元年12月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・地中レーダーをやって危険反応が出ている場所については調査を検討された方が良い ・地中レーダーで天守台周りのお城の痕跡がわかった可能性がある。地下に残っている遺構を的確に保護しながら、何々するという非常に重要なことが求められている
令和2年 3月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・思った以上に（天守台石垣の）表面剥離の損傷がひどい。構造物的な危険性は、まずそこまでではないんだという結論に達したとしても、表面の割れ具合が予想以上にひどい ・御深井丸側の石垣の面もひどい剥離。（剥離しそうな石材を）どのように留めるか、コーティングするなり、経年変化をみるなり、実験をする必要がある ・押さえ盛土（軽量盛土）で内堀を埋めることで、工事中の安定性を得る計画となっているが、（石垣の）裏に空洞があると押さえ盛土（軽量盛土）が逆に（石垣を）押し込んでしまう危険性がある。いずれにせよ、現段階では大きな空洞は見つかっていないので、その辺を中心に検討すればよい ・押さえ盛土（軽量盛土）を念頭におく必要がある。剥離しかかっているこれだけの多数の石垣面にどう対処するのか。構造面と外観上の損耗、この両方からの対処にターゲットを変えていかないといけない ・一番の問題は表面の剥離、熱被災による剥離で（石垣面の）焼けた部分での剥離、破壊の情報をもう少し細かくとってもらえるとよいと思う ・かなり深刻な状況で石の熱劣化が起きている状況だが、石垣全体としては、熱劣化しているものまで大解体をしなければいけないかということ、その必要性はなさそうである ・熱劣化で傷んだ石が、これ以上劣化したり、剥離していけないためには、どうしたらいいか具体的に考えていくべき

区 分	構成員の発言要旨
令和2年 3月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな課題はあるけれど、現在の石垣は、そこそこ安定している。まだ補佐的なところについては、さらに検討を要する
令和2年 7月 2日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本丸の西側の石垣の前を（軽量盛土で）埋めて、という設計で考えていて、大きく湾曲しているような不安定な構造で造られている側に土圧をかけるという設計であれば、腰回りは大丈夫なのかという議論を、これからしなければいけないと思う ・ 極力軽くするといっても、石垣にも土圧がかかっているというのは、文化財に与える影響はどうか、という検討は必要になる ・ 戦争で旧の木造天守が焼けてしまった後で、石垣が熱を受けて表面が熱劣化し、触ると崩れ落ちてしまうような、厳しい状況にある。単純に（軽量盛土で）埋め戻して何かシート1枚を（石垣と軽量盛土の）間に入れるといっても、そのままでは剥離や断裂が進み、本質的な価値を持つ石垣の保全と両立できないと思う。そこに対しての対策も十分とった上で、この（市から提案のあった、軽量盛土を用いた）工法というのがあり得るかもしれない ・ まずは埋蔵文化財としての石垣などの状況の計画的な調査が必要。あわせて脆弱化している石垣面（の対策）を、実際にこういう方法で担保できるといいう、両方のことが伴わない限り、（石垣面に）土圧がかからないように（軽量盛土の）埋戻しができるとはならないと思う ・ （軽量盛土の）埋戻しの範囲が小天守台の脇のところまでくるとなれば、この範囲も現状を調査しないといけない ・ （軽量盛土が）発泡スチロールであること、施工中に石垣面へは力がほとんどかからないのではないかということ、（石垣面を）押さえられたことによるリバウンドによる変形もそれほど大きくないだろうことから、今回用いる押さえ盛土（軽量盛土）による石垣への影響というものは、あまり大きくないだ

区 分	構成員の発言要旨
令和2年 7月 2日	ろうと思っている。ただ、問題は、熱石等の表面が劣化した石。これに対する損傷、その可能性がまだ残されていると思っている
令和2年 9月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・濃尾地震の時に大崩壊を起こした部分と、オリジナルの部分無理やり擦り付けた部分で、ゆがんだ状態で現状ある。これより下の根石まわりを密にレーダーをかけてもらえないか
令和2年12月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・堀底の攪乱自体が、石垣の維持にどのくらい悪影響を与えるのかを、これまでの成果と合わせて、整理する必要がある ・遺構、及び攪乱とレーダーの反応の対応のメカニズムが、はっきりわかるように調べていただきたい
令和3年 2月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・（天守台石垣の）内部構造は比較的安定している ・石そのもの、石材の劣化が見られる。その判定は残っている ・石の劣化は除いて、おおむね構造は安定しているという評価 ・（内堀から石列が発見された状況の説明を受け）これほど重要な遺構が空堀の底にあるということになると、現天守閣を解体する計画の中で、内堀を埋め立てて、足場を組んだり、かなり巨大な見学デッキの基礎をここに据えて造るという計画は、完全に危うくなったということだと思う ・（内堀に）仮設を造るということになれば、従来指摘してきた石垣の保全そのものと、空堀の保全も従来以上に万全の対策をしなければならない ・（地下遺構の）一定の遺構の性格、最低限わかるところまでは、あるいはその範囲をつかむ必要があるだろうと思う ・最低限考えなければいけないのは、今の現状、特別史跡を構成している遺構が安定しているかどうかの判断をしなければいけない ・安定策をとるために必要な調査を追加するという発想をまずもってもらいたい ・表面劣化も防ぐような、何がしかの緩衝材を入れる

区 分	構成員の発言要旨
令和3年 2月12日	<p>等、検討をしないではいけない</p> <ul style="list-style-type: none">・堀底で検出された遺構自体の永続的な保存というものをベースにおいての追加調査をやっていくなど、十分詰めていただきたい・現在遺された遺構そのものに対して、安定しているか、どうかというあたりが、おしなべて大事

2 文化庁からの指摘事項に対する追加情報の作成に係る教育委員会事務局との調整内容

区 分	内 容
追加情報の構成	<ul style="list-style-type: none"> ・調査の概要と得られた成果 ・調査を踏まえた検討内容 ・有識者会議での意見 ・検討結果
資料のまとめ方	<ul style="list-style-type: none"> ・階層的に資料を作成する ・最上位の資料には指摘事項ごとの調査成果・検討結果を簡潔に示し、検討内容等は別添資料にまとめる ・図面、写真等の資料は、さらにその下位で資料編にまとめる
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・追加情報作成に際して必要な調査のための現状変更許可手続き ・文化庁に指導助言をいただく際の日程調整及び同席 ・文化庁からいただいた指導助言に対するフォローアップ

